町内会をはじめとする
地域コミュニティのあり方

若者が町内会を知り、
気軽に参加できる仕組みへ

せんだいユースカウンシルBグループ

※表紙イラストは生成AIによる概念図です。実在の地域活動を撮影したものではありません。
※ペルソナ・年齢区分は施策設計上の仮説です。



目次

本日の発表の流れ

01	問題提起とアンケート	町内会は若者に嫌われているのか？ 90人のアンケート結果	P3〜5
02	提案の考え方	若者を18〜25歳と26〜39歳の2つに分ける	P6
03	打ち手	「知る」ための打ち手／「参加する」ための打ち手／共通の土台	P7〜12
04	目指す姿	知る→お試し参加→継続参加→広げる、のゴールデンサイクル	P13
05	行政への期待	市に担ってほしい3つの役割	P14
06	まとめ	嫌われているわけじゃない！ 知る入口を行政が支える	P15

議論の経過・アンケートの詳細・外部データは参考資料（P16〜）に掲載しています。

01　問題提起

若者離れが進む町内会は、若者に嫌われているのか？

仮説A

町内会そのものが嫌われている

活動は知っているが、関わりたくない

VS

仮説B

活動内容を知らないだけ

知らないので、興味・関心が生まれない

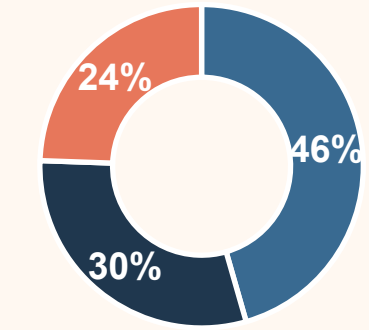
そこで、アンケートを実施しました

回答90人（10代・20代が約8割）／2026年9月29日～10月4日

01　問題提起　アンケート①

町内会に「入っている」のは46%。約4人に1人は「わからない」

町内会に入っていますか？（n=90）



- 入っている（41人）
- 入っていない（27人）
- わからない・知らない（22人）

54%
49人が「入っていない」または「わからない・知らない」

24%
22人（約4人に1人）は、入っているかどうかさえ「わからない・知らない」

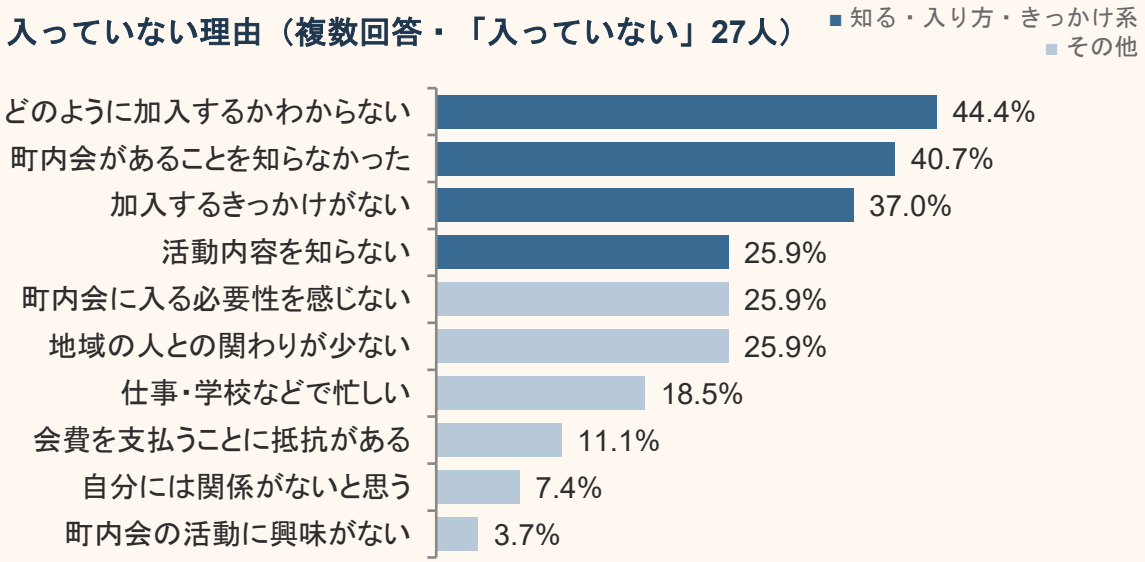
61%
10〜20代は71人中43人が「入っていない／わからない」（30代以上は18人中5人＝28%）

出典：独自アンケート「若者から見た『町内会』に関するアンケート」（Googleフォーム、2026年9月29日〜10月4日、回答90人）

01　問題提起　アンケート②

入っていない理由の上位は、入り方・存在・きっかけが分からないこと

入っていない理由（複数回答・「入っていない」27人）



74%
20/27人が「知らない・入り方・きっかけ」系の理由を選択

1人
「活動に興味がない」は27人中1人（3.7%）

31件
【参考】市の青葉区民まつり調査でも、最多は「入り方がわからない」

委員の体験：引っ越しても案内がない／住所で検索しても自分の町内会が分からず、区役所に問い合わせた

出典：独自アンケート「若者から見た『町内会』に関するアンケート」（Googleフォーム、2026年9月29日～10月4日、回答90人）

02　提案の考え方

打ち手を明確にするため、若者を2つの年齢層に分ける

1　18～25歳　「知る」ための打ち手

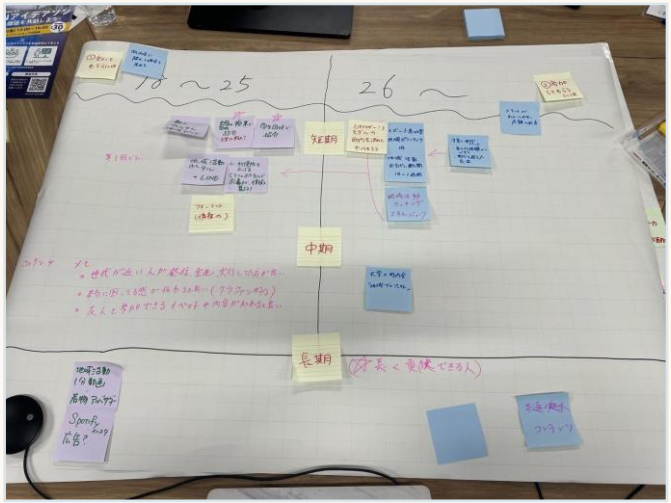
進学などで仙台に住み始める時期。まず町内会の存在・役割・自分の地域を知る。

ペルソナ：学生

2　26～39歳　「参加する」ための打ち手

仕事・子育てと両立しながら、役割や時間を選んで「まず1回」参加できる。

ペルソナ：子どものいる社会人



第4回の議論：18～25歳／26歳～に分けて施策を整理したワークシート

それぞれのペルソナを描いて具体策を考えます（※区分・ペルソナは仮説）

03　打ち手①　18〜25歳（知る）

ペルソナ①　学生：まず「知る」

打ち手　大学へ出前講座／学生と町内会のマッチング → 届けたい相手は「大学に通う学生」



大学2年生・20歳

一人暮らし

「仙台に住んでいるけど、自分がどの町内会か分からない。面白そうな活動なら参加してみたい。」

接点　大学・SNS・LINE・友人

ハードル　町内会を知らない／自分との関係が分からない

必要なこと　「町内会を知る機会」がある

03　打ち手①　18～25歳（知る）

18～25歳への打ち手：「知る」を学生生活に埋め込む

1　大学で町内会の出前講義

暮らしに身近な町内会の仕事（ごみ集積所・防災・見守りなど）を紹介。最後に自分の町内会・参加活動の探し方まで案内。

2　学生と町内会を市がつなぐ

町内会の「頼みたい作業・日時」と、学生個人の「得意」を市がマッチング。

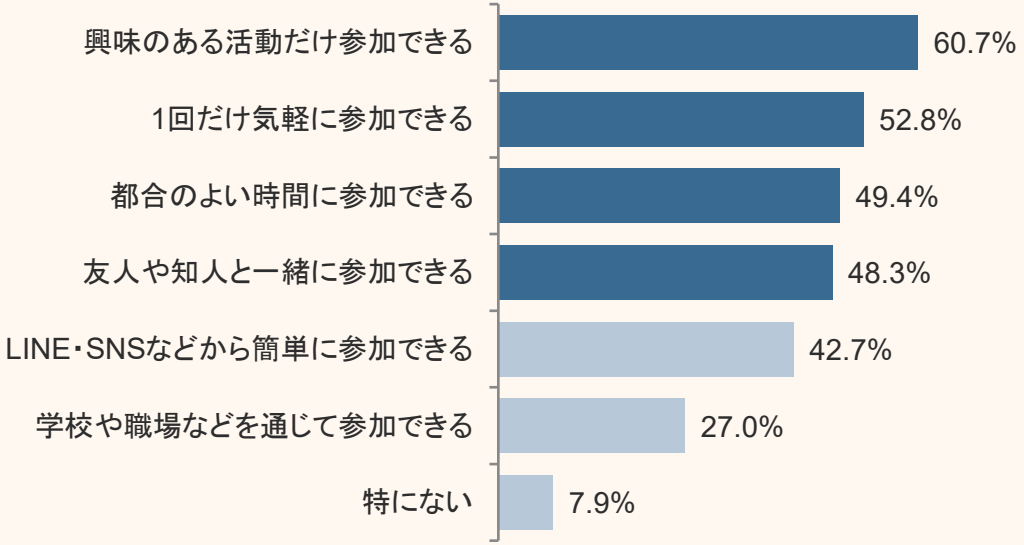
実績：委員の学生団体が、市の調整で4つの町内会で高齢者向けスマホ教室を企画・実施することができた

狙い：町内会を「自分から探すもの」ではなく、学生生活の中で自然に知るものへ

03　打ち手②　26～39歳（参加する）

参加の条件は「選べる・1回だけ・友人と」

参加しやすい方法（複数回答・回答89人）



この声を、打ち手の設計条件にすると

1.興味のある活動だけ（61%）

→ 住所から町内会と活動を探せるサイト

2.1回だけ（53%）都合のよい時間（49%）

→ 1日から参加できる活動

4.友人や知人と一緒（48%）

→ 友人や親子で申し込める活動

5.LINE・SNSから簡単に（43%）

→ LINEと街なかでの周知

出典：独自アンケート「若者から見た『町内会』に関するアンケート」（Googleフォーム、2026年9月29日～10月4日、回答90人）

03　打ち手②　26〜39歳（参加する）

ペルソナ②　子どものいる社会人：まず「参加する」

打ち手　親子で1日から参加できる活動／→ 届けたい相手は「子どものいる社会人」



32歳・会社員

子ども1人

「地域とのつながりはあった方がいい。でも、仕事と子育てで役員や定例会は難しい。」

接点　子育て・学校・LINE・検索

ハードル　時間がない／参加すると役を頼まれそう

必要なこと　1回・短時間・親子で「お試し参加」できる

03　打ち手②　26～39歳（参加する）

26～39歳への打ち手：「参加する」ハードルを下げる

1 1日から参加できる地域活動

モデル町内会を募り、短時間・1回から参加できる活動を市がサポート。初回から役員を求めない。

2 親子で参加できる活動

花植え・落ち葉拾いを「子どもの体験」として再設計。
親子で短時間参加→希望者だけ次回へ。

狙い：「加入する」前に「1回参加する」という選択肢をつくる

03　打ち手　共通の土台

全世代共通の土台：地域活動を「探せる・選べる・申し込める」

「知る」　「参加する」

1

住所を入力

自分の町内会の候補を表示

2

町内会を知る

具体的な活動内容、会費、活動頻度、友人知人との参加ができるかなどの情報を掲載

3

活動を選ぶ

学生→出前講座やマッチング申込　など
社会人→スポット参加や親子向け活動　など

4

申し込む

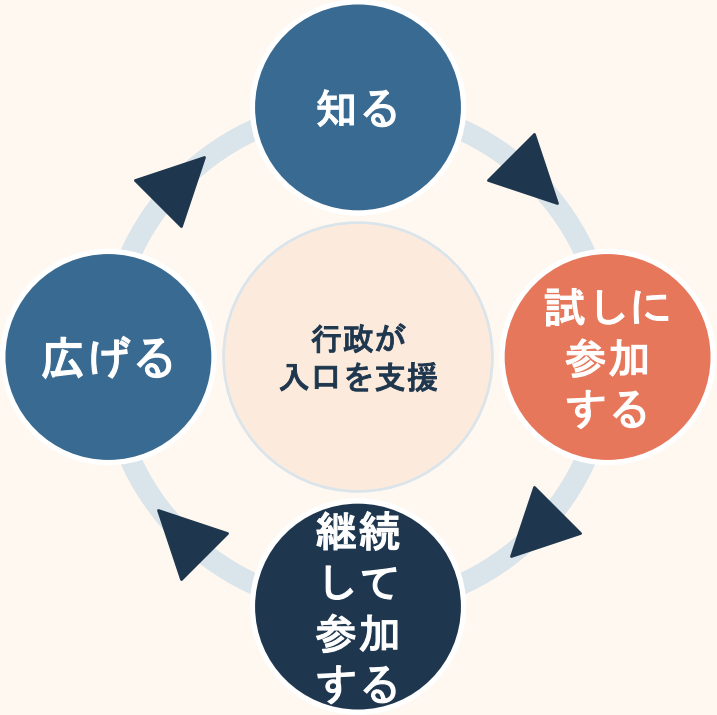
・Web上で簡単に申込
・必要に応じて、市や仲介者が町内会と新規参加者の間を取り持つ

＋ 市公式LINEや大学・駅・スーパー等の身近な場所で「サイトの存在」を知らせる

市にお願いしたいこと：情報を一元化し、住所・区域の正確性と掲載基準の公正性を担保

04　目指す姿

打ち手がめざす姿：町内会参加のゴールデンサイクル



1　知る
町内会の活動内容に出会う
行政：情報に接触する機会をつくる

2　試しに参加する
1回・短時間・親子で気軽に
行政：1回参加できる入口をつくる

3　継続して参加する
自分に合う役割・頻度で無理なく
行政：自分に合う参加方法を用意する

4　広げる
友人・家族に伝え、次の「知る」へ
行政：体験を共有できる場をつくる（案）

05　行政への期待

市に担ってほしい3つの役割

1	大学への働きかけ	出前講座を実施し、学生が町内会を知る機会をつくる	18〜25歳の「知る」入口
2	町内会への働きかけ	モデル町内会で1日体験・親子参加をサポート	26〜39歳の「参加する」入口
3	知る・参加することを支える情報発信の基盤づくり	住所検索・活動一覧・申込みをHP上でまとめ、LINE等で周知	若者が地域へ入る共通窓口

仙台市だからこそできること：はじめの働きかけ／若者と町内会の調整／共通基盤の運営

05　まとめ

町内会の若者離れは、嫌われているからではない

背景

「知ることができていない」

未加入27人の74%が、「知らない・入り方・きっかけ」系の理由を選択

行政の支援

接触する機会・手段の提供

出前講座・マッチング・1日体験・探せる窓口

期待できること

お試し参加から継続参加へ

知る → 試しに参加 → 継続して参加のサイクル

嫌われているわけじゃない！ 知る入口を行政が支えれば、参加は広がる

議論の経過・アンケート詳細・外部データは参考資料（P16〜）に掲載しています

参考資料

参考資料　目次

A	打ち手の詳細	本編の打ち手6つの対象・背景・具体的な進め方	P17～22
B	現状・課題の詳細	テーマ理解、仙台の若者、若者の印象、委員の体験、市の施策、目指す姿	P23～28
C	議論の経過	本編に載せきれなかった案と、第1～4回の議論要旨（写真つき）	P29～36
D	アンケート詳細	回答者の属性、年代別の加入状況、参加してもよい活動、イメージの声、集計表	P37～41
E	外部データ	仙台市の人口・学生数、転入転出、青葉区民まつりアンケート、現状整理	P42～49
F	留意点	今回の提案を考えるうえでの留意点	P50

参考資料

知る①　大学で町内会の出前講座を行う

対象　学生。特に転入者や一人暮らしの学生

背景　18歳頃から地域との接点が減る。委員も防犯や見守りの役割を議論で初めて知った

市が大学で出前講座を行い、暮らしに身近な町内会の仕事を紹介する

紹介する役割	授業で扱う例
毎日の暮らし	ごみ集積所、地域の情報、道路などの困りごと
安全・安心	防災訓練、避難所、防犯、見守り
地域の交流	祭り、子どもの体験、近所で顔が分かる関係

出前講座の最後に、自分の町内会と参加できる活動の探し方を案内する

参考資料

知る②　学生と町内会を市がつなぐ

対象　地域で活動したい学生団体や学生個人

背景　委員の学生団体は、市の調整で4町内会のスマホ教室に参加できた

町内会　頼みたい作業や日時、必要人数を具体的にあげる

↓

市　町内会と学生の希望をマッチングする。双方がうまくやり取りできるよう、間を取り持つ

↑

学生　得意なことと参加できる人数を伝える

参考資料

参加する①　1日から参加できる地域活動の提案

対象　社会人。子育て世代、得意なことを生かしたい人

背景　参加すると役員を任されそうで不安。委員からは「メリットより負担の少なさが大切」との声

モデルとなる町内会を募り、市がサポートして実施

申し込む前に示すこと	初回に向く活動
時間・場所・服装・持ち物	花植え、清掃、祭りの準備や当日の手伝い
親子・友人で参加できるか	子ども向け体験の手伝い、世代間交流
求められる役割	得意なことを生かす手伝い

「お試し」での体験が、加入への最初の一歩につながる

参考資料

参加する②　親子で参加できる活動の企画

対象	子育て世代
背景	担い手が必要とされている、花植えや清掃などの活動も「子どもの体験」として伝えると、参加したい理由になると考えた

モデルとなる町内会を募り、子どもの体験を地域とつながる入口づくりとして、市がサポートして実施

参加する理由	子どもに、地域の人と関わる経験をさせたい
参加しやすい形	親子でできる短時間の活動から選ぶ。会合への欠席やオンライン参加が認められやすいと持続可能
町内会の準備	子どもの年齢に合う役割と安全上の注意を示す。誰でも意見を言いやすい環境を作る
参加した後	次の行事を案内し、希望者だけが再び参加する

参考資料

支える①　町内会の情報をまとめたポータルサイトを構築する

対象　自分の町内会が分からない若者・転入者・集合住宅の住民、町内会活動に興味のある若者

背景　委員は住所で検索しても町内会が分からず、区役所への問い合わせが必要だった

町内会を調べるところから申し込みまでをまとめたサイトを市でつくる

	1 住所を入力	2 町内会を見る	3 活動を選ぶ	4 申し込む
知る	町内会の候補を表示	区域・活動・困りごとを確認	出前講座・マッチングの申請	市や仲介者が参加先につなぐ
参加する		会費・会合の頻度・活動内容を確認	日時・役割・親子参加を確認	

市にお願いしたいこと　情報を一元化し、住所・区域の正確性と掲載基準の公正性を担保する

参考資料

支える②　LINEと身近な場所で知らせる

対象　市のホームページを自分から探さない若者

背景　委員から「市が情報を出していることを知らなかった」という声が出た。身近な生活で目にする場所に掲示物があった方がいい

サイトをつくるだけでなく、若者の目に入る場所で知らせる

工夫	具体的な方法
LINEで知らせる	市公式LINEからサイトへ案内する
街でも知らせる	大学、地下道、スーパーなどにチラシを掲示する
若者が紹介する	町内会活動に参加した若者がリアルな体験談を発信する

掲載内容の共通フォーマットを市が用意し、まずは一部の町内会から始める（町内会の負担を減らす）

参考資料

テーマ理解：町内会をはじめとする地域コミュニティのあり方

現状

若者の町内会離れ

若者の本音：地域コミュニティへの関心の低下、参加への不安（なんとなく怖そう・固そうなイメージ・・・）

理想の姿

さまざまな世代・転居者が地域活動を知り、若い世代が自分に合う形で参加できる

参考資料　B 現状・課題の詳細

参考資料

仙台の若者は町内会とつながりにくい

学生・転入者・単身世帯が多く、地域との接点が自然には生まれにくい

1	**若者・学生が多い**	大学や専門学校に通う間だけ仙台に住む人もいる
2	**就職時に転出する人が多い**	同じ地域に長く住む前提を持ちにくい
3	**単身・集合住宅が多い**	町内会の案内を受けないまま暮らし始める人がいる
4	**学校・職場で過ごす時間が長い**	住んでいる地域で活動する時間が少ない

結果　町内会を知らないまま、学校や職場を中心に生活する

参考資料：仙台市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2年3月）

参考資料

若者の印象は「何をしているか知らない・参加しにくいイメージ」

若者の印象・・・町内会の良さや大切さを知る前に、不安や負担を感じている

知らない

- 自分の町内会が分からない
- 活動の情報が届かない

参加しにくい

- 入り方が分からない
- 同世代が参加していない
- 参加すると負担が大きそう

参考資料

委員の体験から見えた「知らない・参加しない」理由

知らない理由

委員の体験　引っ越した時、町内会の案内がなかった
→ **知るきっかけがない**

委員の体験　自宅の住所で検索しても分からず、区役所に問い合わせた
→ **自分の町内会を探すハードルが高い**

委員の体験　祭り・子ども会の印象だけで、防犯や見守りは議論で初めて知った
→ **町内会の役割が伝わっていない**

参加しない理由

委員の体験　募集しても最後は知り合いへの声掛けで、いつものメンバーになる
→ **個人で入れる入口が見えない**

委員の体験　祭りを手伝ったが、意見を受け入れてもらえなかった
→ **初参加でも歓迎される安心がない**

委員の体験　一度関わると複数の役を頼まれ、負担が増える場面を見た
→ **参加後の負担が心配になる**

参考資料

市の施策は町内会支援が中心。若者の入口が足りない

現在の施策を「知る・参加する・支える」に分けると、足りない部分が見える

知る

現在

加入促進チラシ・動画
LINEスタンプ

足りない点

自分の町内会が分からない
募集中の活動まで分からない

参加する

現在

学×まちネット（青葉区）

足りない点

学生個人は申し込めない
他区や運営の手伝いは対象外

支える

現在

役員研修・事例集
デジタル化支援
各種補助金

足りない点

町内会と役員への支援は充実
若者の参加窓口とは別

「町内会を支える施策」から、「若者が地域へ入る施策」へ視点を広げる

参考資料

目指す姿

全体　さまざまな世代・転居者が地域活動を知り、若い世代が自分に合う形で参加できる

知る・・・学生

町内会が何をしているか分かる

- 自分の町内会を探せる
- 参加できる活動が分かる
- 大学や学生団体で地域と接点を持てる

参加する・・・社会人

時間と役割を見て、申し込める

- 親子や友人と参加できる
- 1日から試せる
- 初回から担い手としての役割を求められない

支える　共通の仕組みで住所検索・活動一覧・申し込み

参考資料

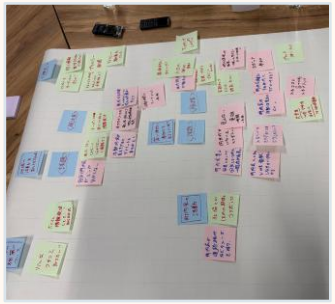
本編に載せきれなかった案と、各回の議論要旨

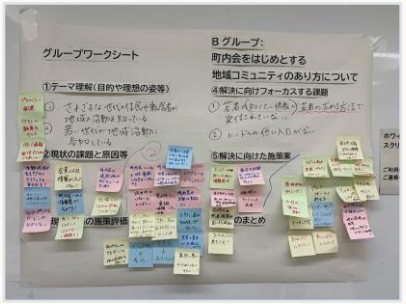
その他の案

① 参加するきっかけ
② 町内会の負担を減らす
③ 情報を見つけやすくする

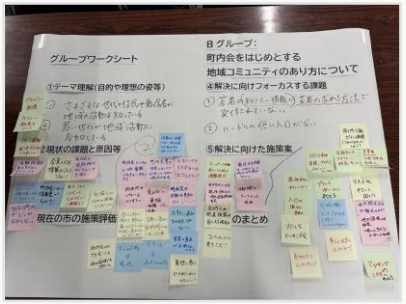
各回の議論要旨

第1回　町内会は何を担っているのか
第2回　情報と参加の入口を考える
第3回　「知る」と「参加する」の課題を整理
第4回　対象年齢と提案を具体化

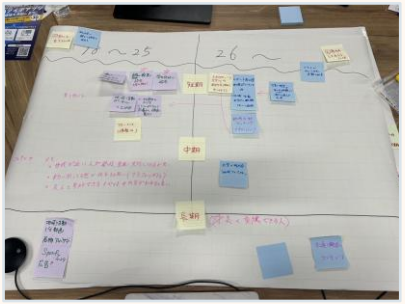

第2回の付箋



第3回のワークシート



第4回のワークシート


第4回の施策整理

参考資料

その他の案①　参加するきっかけ

対象	議論で出た案	委員の体験・考え
初めて参加する若者	参加ポイント、ごみ袋、店舗割引などを初回特典にする	時間を使って参加するには、分かりやすいきっかけも必要
単身の若手社会人	本の交換会、料理教室など、趣味を入口にする	地域活動だけを目的にすると参加しにくい。共通の興味があると集まりやすい
友人と参加したい若者	2人以上で申し込める活動を増やす	若者は活動内容だけでなく、友人と一緒に過ごせることにも魅力を感じる
より深く関わりたい学生	当日参加だけでなく、企画段階から参加できる枠をつくる	当日の手伝いだけでは得るものが少ない、という意見が出た

検討点　特典だけを目的にせず、次の参加や地域の人との関係につなげる

参考資料

その他の案②　町内会の負担を減らす

対象	議論で出た案	委員の体験・考え
若い参加者	青年部など、若者が話しやすい小さな組織をつくる	祭りの手伝いで意見を受け入れてもらえず、入りにくさを感じた委員がいた
新しく加入した人	役員を引き受けるか断るかを選べるようにする	一度関わると複数の役を頼まれ、負担が増えるという経験が出た
人数が減った町内会	班の統合や当番の見直しで、同じ人に仕事が集中しないようにする	委員が大学の授業で調べた町内会では、班の統合で輪番の負担を減らしていた
学校・地域団体	配布など一部の仕事を運動部や団体に依頼し、謝礼を出す	町内会の仕事を全部任せず、若者に頼める部分から切り出す案が出た

検討点　町内会ごとの人数、活動量、地域事情に合わせて選べるようにする

参考資料

その他の案③　情報を見つけやすくする

対象	議論で出た案	委員の体験・考え
ネットで探さない若者	スーパー、駅、公共施設、ごみ集積所に掲示する	市が多くの情報を出していても、委員はその存在を知らなかった
必要な情報だけ欲しい人	LINEで受け取るテーマを選べるようにする	通知が多いと見なくなるため、興味のある情報だけ届く方がよい
参加を迷っている人	募集人数と現在の応募人数を表示する	本当に困っている人数が見えると、手伝う理由が分かりやすい
個人情報が心配な人	公開情報と会員向け情報を分け、本人確認を組み合わせる	活動を詳しく見せるほど、住所や個人情報への配慮が必要になる

検討点　便利さと個人情報保護を両立させる

参考資料

第1回の要旨　町内会は何を担っているのか

主な議論

町内会が必要な理由、加入していなくても困らない理由、行政との役割分担

分かったこと

防災、防犯、見守り、ごみ集積所、情報配布など、知られていない仕事が多い

委員の体験

案内がなく加入していない。住所で町内会を探せない。加入していなくても日常では困らない

次の課題

活動を知らない人へ、役割と自分の町内会をどう伝えるか

議論の出発点　町内会を残す前に、地域に必要な仕事を確かめる

参考資料　C 議論の経過

参考資料

第2回の要旨　情報と参加の入口を考える

主な議論	自分の町内会を探せない、情報が届かない、参加の負担が見えないという課題
出た案	スーパーや駅での掲示、活動リーフレット、マッチング、1日参加、地域活動のサイト
委員の実感	市は情報を出しているが知らなかった。同世代がいないと入りにくい。時間と費用が見えない
注意点	詳しい情報を公開する時は、住所や個人情報への配慮が必要



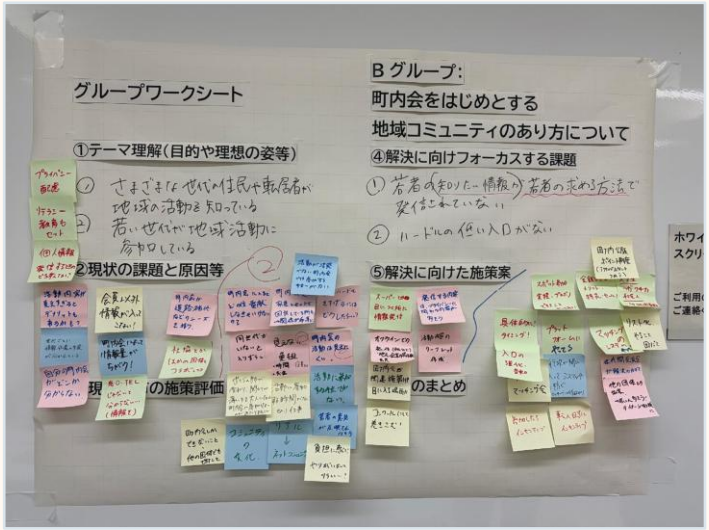
第2回：付箋で課題と案を整理

議論の方向　知る方法と、気軽に参加する方法を分けて考える

参考資料

第3回の要旨　「知る」と「参加する」の課題を整理

知る課題	会員外に情報が届かない。発信方法に差がある。役割や負担など、知りたい情報がない
参加する課題	仕事や学業で忙しい。知人への声掛けが中心。役員や継続的な負担が不安
委員の意見	社会人には負担の少なさ、学生には意見や得意なことを受け入れてもらえる安心が必要
出た案	青年部、役員を断る選択肢、班の統合、仕事の切り出し、学生団体とのマッチング



第3回：グループワークシート

議論の整理　まず活動を知り、その後に負担の少ない参加方法を選べるようにする

参考資料　C 議論の経過

参考資料

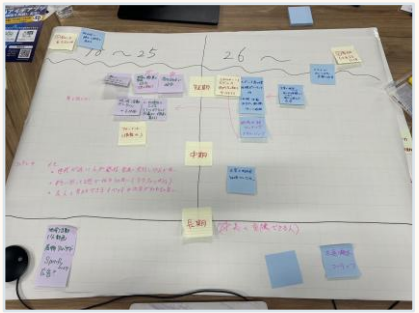
第4回の要旨　対象年齢と提案を具体化

対象の整理
18〜25歳には町内会を知る機会、26〜39歳には1日から参加する機会をつくる

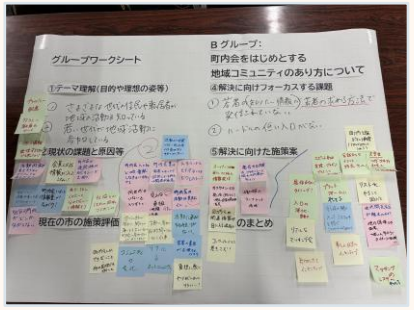
提案の中心
大学の授業、学生とのマッチング、親子参加、住所検索サイト、市公式LINE

委員の体験
市の調整で学生団体が4町内会のスマホ教室を実施。日程調整の負担がなかった

実施の考え方
町内会の掲載様式をそろえ、一部の町内会から試す。市や仲介者が初回を支える



第4回：18〜25歳／26歳〜の整理



第4回：グループワークシート

最終案

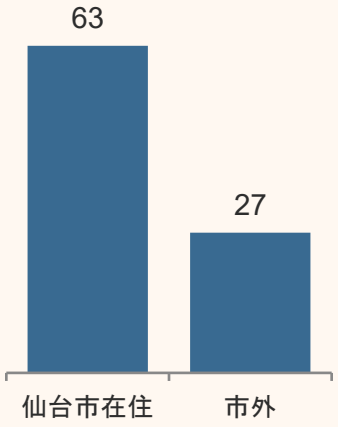
知る、1日参加、共通サイトの3つを市へ提案する

参考資料

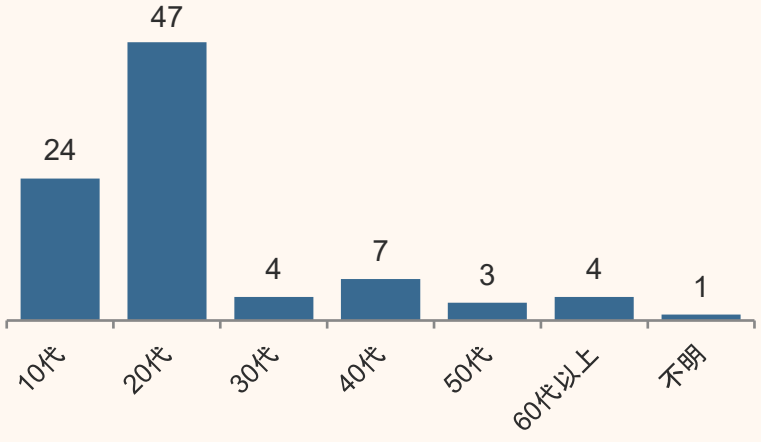
アンケートの概要と回答者の属性

「若者から見た『町内会』に関するアンケート」／Googleフォーム／2026年9月29日～10月4日／回答90人

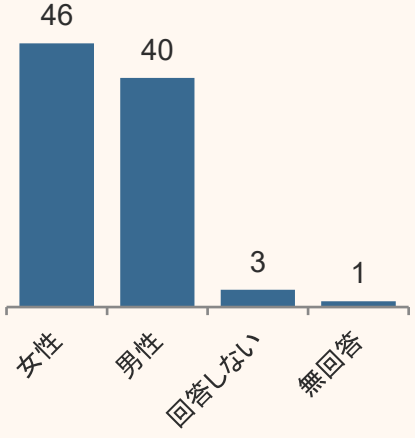
居住（仙台市）



年代



性別



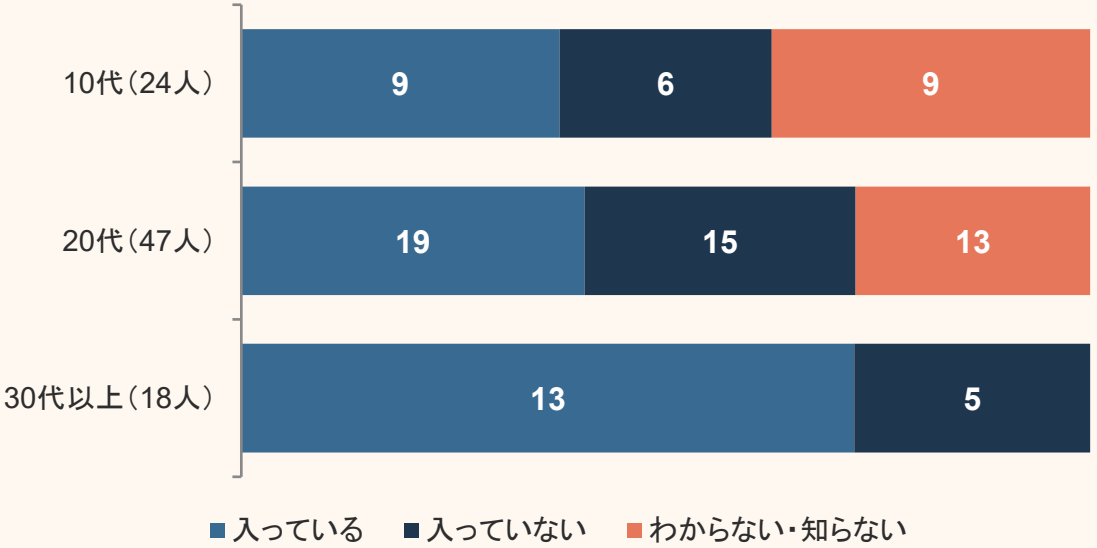
10代・20代が79%（71人）。30代は4人のため、26～39歳（子育て世代）のニーズは今後の検証が必要

※年代欄に「一人暮らし」と入力された回答1件は「不明」として集計。性別は1件が無回答。

参考資料

年代別の加入状況：10〜20代の約6割が未加入・不明

町内会に入っていますか？（年代別・人数）



61%　10〜20代：未加入・不明（43/71人）

28%　30代以上：未加入・不明（5/18人）

居住別（仙台市在住63人）
入っている26人（41%）
入っていない23人／わからない14人
（市外27人は入っている15人＝56%）

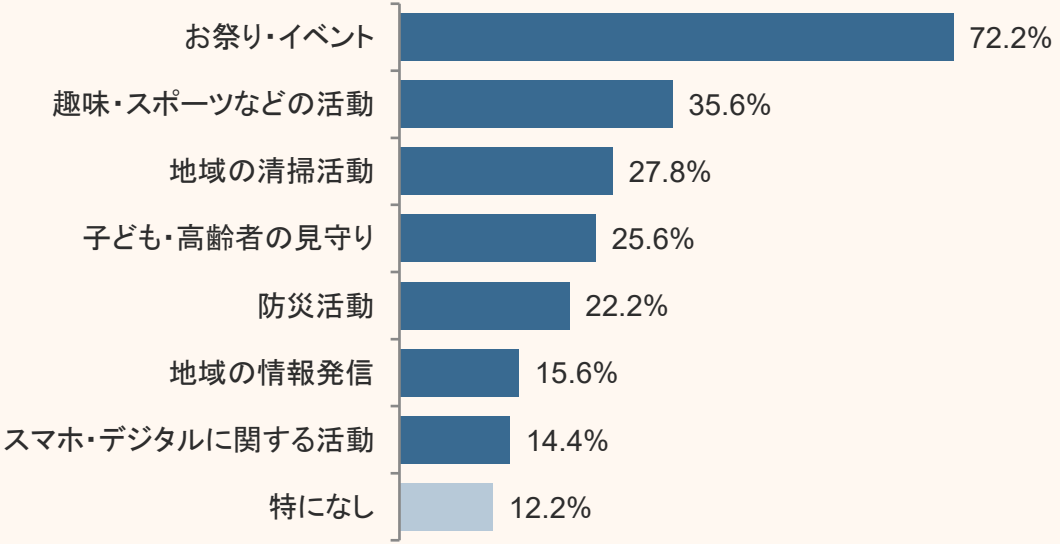
出典：独自アンケート「若者から見た『町内会』に関するアンケート」（Googleフォーム、2026年9月29日〜10月4日、回答90人）　※年代不明1人を除く（89人）

参考資料　D アンケート詳細

参考資料

参加してもよい活動：約9割が何らかの活動なら参加可

どのような活動なら町内会に参加してみてもよいか（複数回答・回答90人）



88%
79人は「特になし」以外を選択（自由記述を含む）

72%
「お祭り・イベント」が最多（65人）

36%
「趣味・スポーツなど」が2位（32人）

出典：独自アンケート「若者から見た『町内会』に関するアンケート」（Googleフォーム、2026年9月29日～10月4日、回答90人）

参考資料

町内会のイメージ（自由記述より・原文のまま）

設問⑤「町内会と聞いて、どのようなイメージがありますか？」90件の回答から抜粋。分類は委員による。

活動のイメージ

「小さなお祭りをやる」
「回覧板を回す団体」
「芋煮会」
「公園の掃除をしてる」
「地域のお祭り運営」
「地域清掃、地域イベント　繋がり」
「芋煮会や避難訓練など」
「ごみステーションや公園などの維持管理などをしている」

人・つながりのイメージ

「近隣住民との繋がりや顔見知りになる場」
「住み良い地域づくり」
「のんびりした地域の集まり」
「子供会、資源回収を中心とした地域活動の主軸」
「私の地元にあるので馴染みはあるが引っ越してきた人への認知が少ないと思っている」

古さ・負担のイメージ

「古い」
「昔ながらな感じ」
「めんどくさい」
「強制的」
「大変」
「大人の集まり」
「老人の集まり」
「おばちゃん達の集い」
「おじいちゃんが良く参加してる古い慣習とかありそうなイメージ」
「性格悪い人しかいない」

参考資料

集計表：入っていない理由と、参加しやすい方法

④-2 入っていない理由（複数回答・27人）

理由	人数	割合
どのように加入するかわからない	12人	44.4%
町内会があることを知らなかった	11人	40.7%
加入するきっかけがない	10人	37.0%
活動内容を知らない	7人	25.9%
町内会に入る必要性を感じない	7人	25.9%
地域の人との関わりが少ない	7人	25.9%
仕事・学校などで忙しい	5人	18.5%
会費を支払うことに抵抗がある	3人	11.1%
自分には関係がないと思う	2人	7.4%
町内会の活動に興味がない	1人	3.7%
その他（自由記述）	2件	—

⑦ 参加しやすい方法（複数回答・89人）

方法	人数	割合
興味のある活動だけ参加できる	54人	60.7%
1回だけ気軽に参加できる	47人	52.8%
都合のよい時間に参加できる	44人	49.4%
友人や知人と一緒に参加できる	43人	48.3%
LINE・SNSなどから簡単に参加できる	38人	42.7%
学校や職場などを通じて参加できる	24人	27.0%
特にない	7人	7.9%
その他（自由記述）	3件	—

※「知る・入り方・きっかけ」系＝上位4項目のいずれかを選択した人は20人（74%）。「関心・必要性」系（必要性を感じない／関係ない／興味がない）のいずれかを選択した人は9人（33%）。重複回答あり。

参考資料　E 外部データ

参考資料

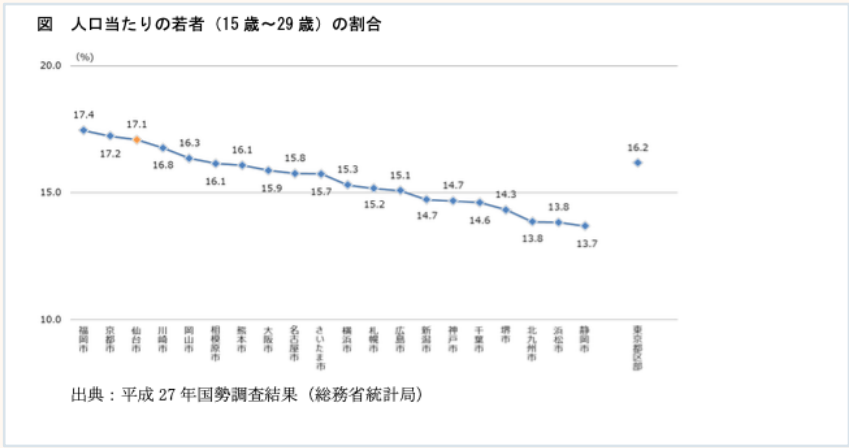
仙台は若者・学生の多い都市（総合戦略より）

人口1万人当たりの学生数の比較（指定都市）



出典：平成 30 年度学校基本調査（文部科学省）、人口動態及び世帯数調査（総務省）
注：学生数は、平成 30 年 5 月 1 日現在。国・公・私立の大学・大学院、短期大学を対象。
注：人口は、平成 30 年 1 月 1 日現在。

人口当たりの若者（15～29歳）の割合



出典：平成 27 年国勢調査結果（総務省統計局）

学生数は人口1万人当たり468人で指定都市3位。15～29歳の割合も3位

出典：仙台市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2年3月）第2部 人口ビジョン（2）学都と人の流れ、10～11頁

参考資料　E 外部データ

参考資料

仙台は若者・学生の多い都市（数字で見る）

49,608人

市内の大学・大学院・短期大学の学生数（2018年）

468人

人口1万人当たりの学生数（指定都市3位）

3位

15〜29歳の人口割合（指定都市3位・東京23区より高い）

人口構成の特徴

20〜24歳付近の人口が厚い。進学をきっかけに仙台で暮らし始める若者が多く、18〜25歳は地域との最初の接点をつくる重要な時期

本編とのつながり　大学の授業や学生団体を入口にすると、多くの若者へ届けられる

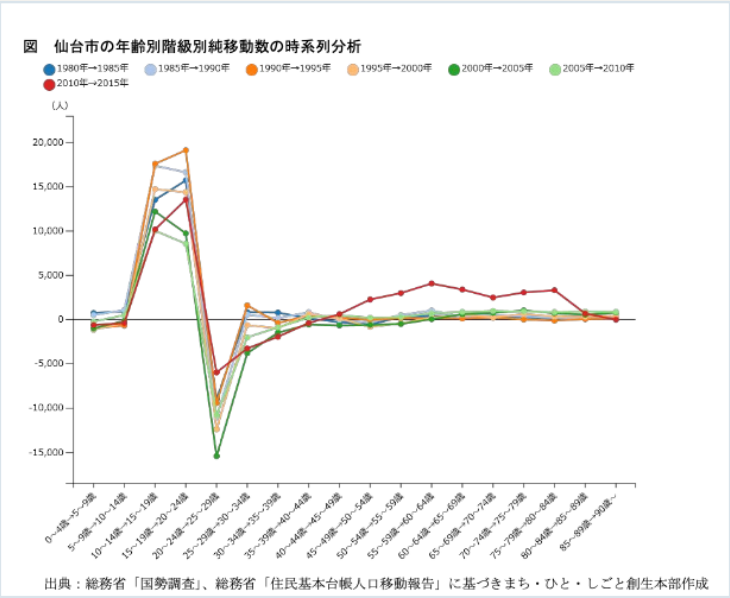
総合戦略掲載データ　学生：2018年／若者割合：2015年。出典：仙台市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2年3月）第2部 人口ビジョン（2）学都と人の流れ

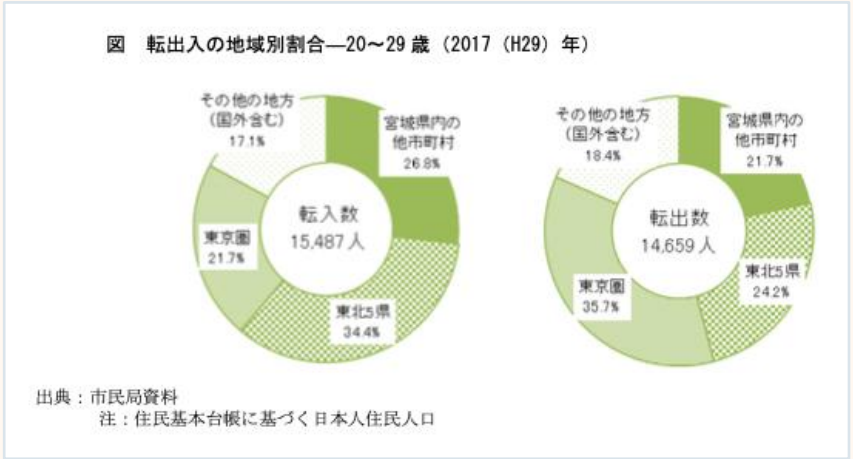
参考資料　E 外部データ

参考資料

若者世代の大規模な転入転出

仙台では、若者の転入と転出が大きい時期がはっきりしている





10～14歳から15～19歳になるときに転入超過、20～24歳から25～29歳になるときに転出超過。20代の転出は東京圏が約4割。

出典：仙台市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2年3月）第2部 人口ビジョン（2）学都と人の流れ、12頁

参考資料

進学で入り、就職期に出る若者の流れ

進学期

10〜14歳 → 15〜19歳

転入超過

進学などで市内へ入る若者が多い

就職期

20〜24歳 → 25〜29歳

転出超過

就職などで市外へ出る若者が多い

1万人超

若者世代の転入・転出の規模（この傾向は過去から継続）

約4割

20代の転出先に占める東京圏（2017年）

本編とのつながり　18〜25歳への「知る」施策は、若者が大きく動く時期に地域との接点をつくる提案

出典：仙台市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2年3月）第2部 人口ビジョン（2）学都と人の流れ、12頁。地域別割合：仙台市市民局資料（2017年）

参考資料　E 外部データ

参考資料

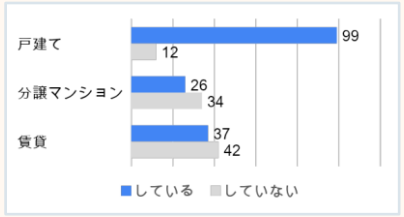
青葉区民まつりアンケート①　町内会への加入状況

町内会への加入状況



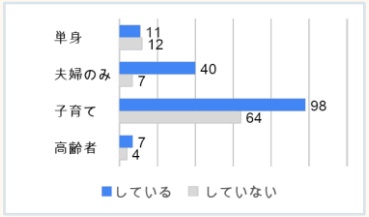
加入している169人（64%）
加入していない94人（36%）
（回答計263人）

住居形態ごと加入状況



戸建て89%／分譲マンション43%／賃貸47%

世帯構成ごと加入状況



単身48%／夫婦のみ85%／子育て60%／高齢者64%

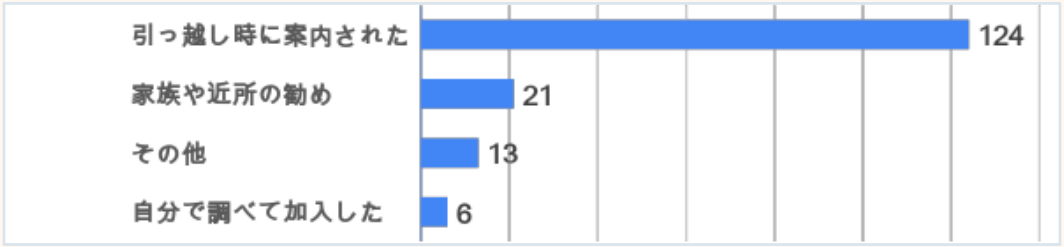
出典：令和7年度 青葉区民まつり（区連協ブース）アンケート集計結果　※割合はグラフの人数から算出
せんだいユースカウンシルBグループ

参考資料　E 外部データ

参考資料

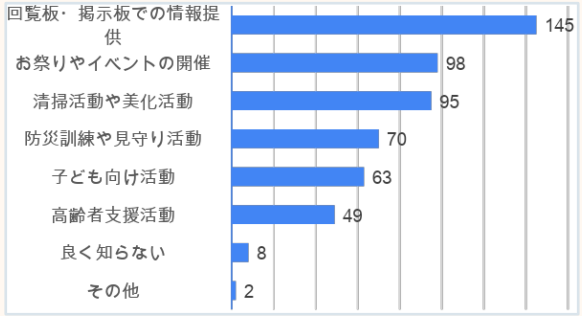
青葉区民まつりアンケート②　きっかけ・認知・良かったこと

加入のきっかけ

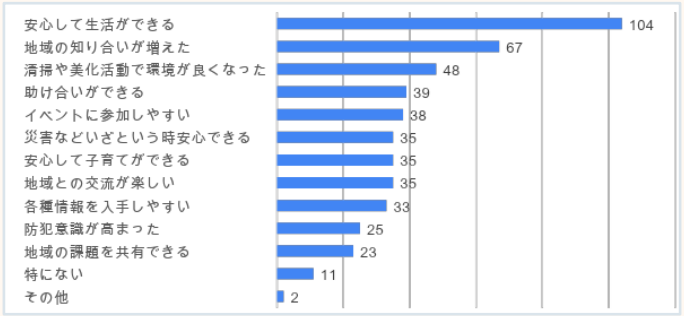


最多は「引っ越し時に案内された」（124件）

町内会活動の内容を知っているか



加入して良かったこと



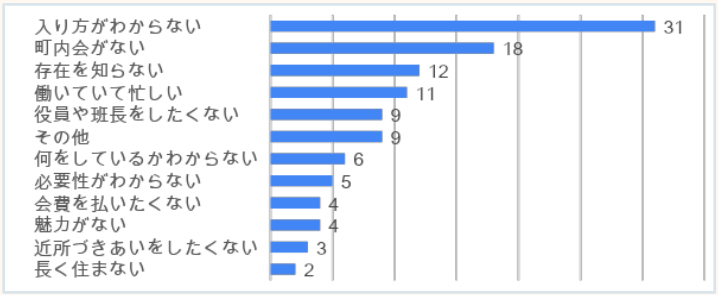
出典：令和7年度 青葉区民まつり（区連協ブース）アンケート集計結果

参考資料　E 外部データ

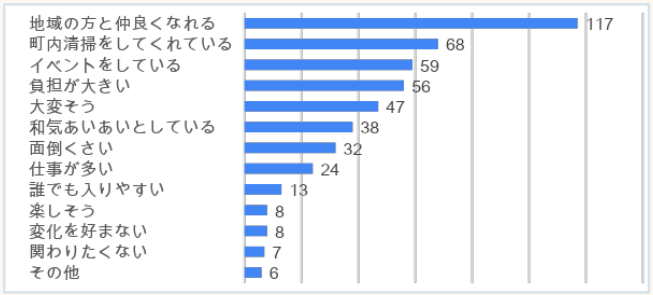
参考資料

青葉区民まつりアンケート③　未加入の理由・イメージ・要望

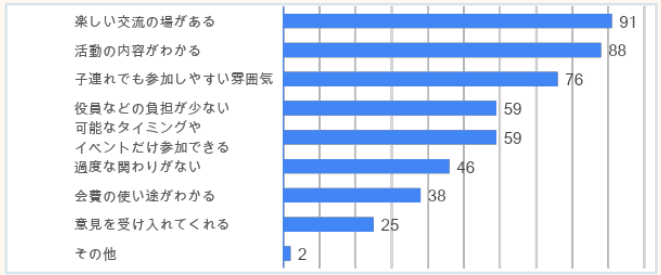
加入していない理由



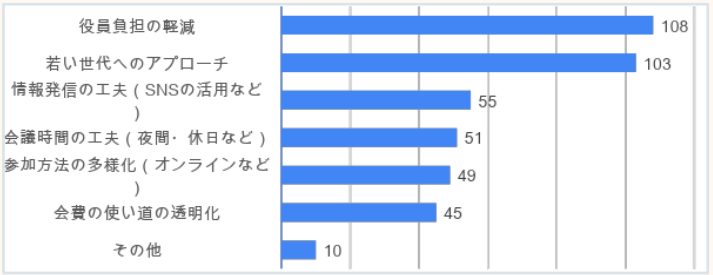
町内会のイメージ



どんな町内会だったら参加したいか



活動に参加しやすくするために改善してほしい点



出典：令和7年度 青葉区民まつり（区連協ブース）アンケート集計結果　※加入していない理由の最多は「入り方がわからない」（31件）

参考資料

仙台市の若者と町内会の関係性の現状

暮らし方の変化と町内会側の負担が重なり、若い世代との接点をつくりにくい

住民の暮らし方の変化

1. **近隣との交流が減少**
   町内会を知る機会が自然には生まれにくい
2. **集合住宅・単身世帯が増加**
   転居時に地域との接点を持たない人がいる
3. **共働きなどで時間が限られる**
   継続的な地域活動に参加しにくい

町内会側の現状

1. **参加者・協力者が不足**
   新しい住民や若者への声の掛け方が分からない
2. **情報発信が紙中心**
   町内会外の若者まで活動情報が届きにくい
3. **役員の高齢化・担い手不足**
   一人当たりの業務が増え、新しい取組に手が回りにくい

本編とのつながり　若者の関心だけでなく、町内会を知る入口と、一度参加できる仕組みが不足している

参考資料

今回の提案を考えるうえでの留意点

アンケートについて

回答は「背景・要因として見えてきたこと」であり、若者全体の因果関係を証明するものではありません。

回答者の偏りについて

回答90人のうち10代・20代が79%、30代は4人です。26〜39歳のニーズは仮説で、今後の検証が必要です。

設問の分母について

「入っていない理由」は、「入っていない」と答えた27人への設問です（90人全体ではありません）。

年齢区分について

18〜25歳／26〜39歳の区分とペルソナは、施策を具体化するための仮説です。実証後に見直します。

実施について

まず一部の大学・モデル町内会で試行し、参加者数・再参加率・運営負担を確認してから横展開します。

情報基盤について

住所・区域・個人情報の扱いには配慮し、掲載基準を統一します。